

タイの中等教育後期課程卒業生へのインタビューから見るタイ・日文化認識 ——日本の伝統文化に対する認識とその背景——

内田陽子

1. はじめに

本研究は、タイの中等教育後期課程（高校に相当）での日本語学習経験を経て、卒業生が日本およびタイ文化に対してどのような認識を抱いているのか、そしてその認識を形成した背景を調査したものである。

矢部（2001）は、海外の初等・中等教育での日本語教育には、大学・成人を対象としたものや日本国内におけるものとは異なる側面があると述べ、その側面として以下を挙げている。（p.16）

- ① 言語そのものの習得以上に、「人間教育」として、異なる文化を捉え、受けとめ、対応する能力の育成が重視されていること
- ② 日本語（外国語）の授業の場が、普段の生活の中で直接にふれにくい「異文化」に意識的に接触させ体験させる使命をもち、そのための手続きが必要とされること

矢部(2001)の述べる日本語教育の側面は、タイ教育省『タイ仏歴 2544 (2001) 年基礎教育カリキュラム』(以下、基礎教育カリキュラム)⁽¹⁾の「内容 2 言語と文化」に相当すると考える。「内容 2 言語と文化」には 2 つの学習水準⁽²⁾が挙げられている。

- 2.1 : 言語とその言語の話し手の文化の間の関係を理解し、時と場合に応じて活用できる。
- 2.2 : 言語及びその話し手の文化とタイ語・タイ文化の間の類似性と相違性を理解し、理性的に活用する。

上記の学習水準を日本語教育に置き換えると、本学習水準では、日本語と日本文化との関係の理解と活用、日本とタイとの類似性と相違性の理解と活用を目指していることになるが、実際はどうであろうか。その検証は重要であると考ええる。

そこで、本研究は、中等教育機関後期課程日本語専攻コースを卒業した日本語学習経験者⁽³⁾を対象とし、日本及びタイ文化に対する認識、およびその認識を形成した背景を調査し、そこから中等教育機関での日本語学習体験が与える影響を考察することを目的とする。また、本稿では、このうち日本語学習経験者の伝統文化認識を取り上げる。

2. 先行研究

2.1 文化とは

文化は研究者の研究目的により、様々に定義されている。文化は固定的で本質なもの、客観的に把握される事実という見方は批判され、多用な価値を内包した雑種的なものであるように変わ

ってきた。また、文化は言説的に構築されたものであるという構築主義的な考え方が台頭してきた(箕浦,2003)。本研究は、箕浦(2003)に沿い、日本文化を「学習者の外にある言語以外の日本や日本人に関する意味体系」(外にあるもの)として考え、日本語学習体験前後を通じて何がどのように学習者の中に取り込まれたかを探ることとする。

2.1 日本語学習者の文化認識調査

日本語学習者の文化認識調査には、呉(2008)の日本人イメージ調査、張(2013)の異文化態度調査などが挙げられるが、これらは大学生日本語学習者を対象としたものである。海外の年少者日本語教育における文化の取り扱いに焦点をあてた調査には、李(2003)、鈴木(2003)があり、李(2003)は教師が「何」を文化として扱うか、鈴木(2003)は教師が「なぜ」「どのように」文化を扱うかを調査しているが、教師の調査でとどまっている。中等教育機関学習者の認識を調査することで、中等教育機関での日本語学習体験が与える影響を考察することは重要であると考えられる。

3. インタビュー調査と分析の方法

3.1 インタビュー調査

北部タイの中等教育機関後期課程の日本語専攻コース(週6~10コマ)で3年間日本語を学んだ卒業生20名を対象に①質問紙調査、②質問紙の解釈を確認するインタビューを実施した(2011年12月、2012年03月)。

卒業生は、中等教育機関A~E校⁴⁾の教師に依頼し、卒業後大学で日本語を主専攻で学んでいる者2名、日本語以外を主専攻にしている者2名、計4名を紹介してもらった。質問紙の内容は、日本語学習を振り返り、日本文化や自文化について気づいた点をタイ語で自由記述するものである(資料1参照のこと)。インタビューは約30分タイ語通訳を介して行った。インタビュー内容は調査協力者の了解を得て録音し、インタビュー後に、調査協力者に自身のタイ語発話を文字化してもらった⁵⁾。調査協力者による文字化は、発話一字一句ではなく、要約されていることもあったが、それも協力者自身の語りであると考え、データとして採用した。

質問紙の回答、及び調査協力者が文字化したタイ語スクリプトは、筆者が日本語訳を行い、タイ人留学生(日本語能力試験2級保持者)によるチェックを行っている。以下本文で引用する発話は、この翻訳及び文字化によるものである。引用の際には、以下の記号を用いる。

調査協力者 ID : (例) 01SAJ (A校出身、日本語主専攻)、07SBN (B校出身、非日本語主専攻)

囲みなし : 日本語学習経験者が作成したタイ語スクリプトの日本語訳

「 」 : 日本語学習経験者の日本語発話

() : 日本語学習経験者のタイ語発話の日本語訳

(日本語学習経験者作成のタイ語スクリプトには存在しないが、補足情報として追加)

《 》 : 筆者によるタイ独特の事柄や表現に対する補足説明

3.2 分析方法

分析対象は質問紙回答、調査協力者自身による発話文字化資料の日本語翻訳版である。佐藤(2008)の定性的コーディングを参考にし、タイ及び日本の社会、文化に関して語っている部分から、「何を」「どのように」認識しているか2重のコードを付し、日本語学習経験者が持つ文化概念をまとめた。また、それぞれの文化概念ごとに認識するようになった背景を併せて抜き出し、リソースとして分類を行った。(図1)

学習経験者 識別	日本文化 社会についての認識 【認識対象】	どのような認識 のしかたなのか ＜認識プロセス＞	A:アン ケート xxx:発 話番号	発話 (R:インタビュアー)	何から認識し ているのか 【リソース】
01SAJ	精神文化/一生懸命さ 精神文化/真剣さ 社会/品質の良さ	日本人イメージの 生成	A6	次に、日本人が働くとき、一生懸命働き、そして仕事に対してとても真剣です。それは、日本人が作ったいろいろな作品に見ることができる。どんなものでも品質の良さがはっきり出ている。	日本作品の観察
01SAJ	生活文化/日本の若者/ 大学生生活・友人関係	共通点の発見	002-004	01SAJ:高校で勉強してから多くのことを経験しました。たとえば、(日本の)映画から日本語を勉強して、日本語についてのレポートを作りました。その映画は、大学生生活のことで、友達とのつきあいの話です。それぞれ性格は違うけれど、最後にはお互いに友達になる話です。	高校の授業から /教材の中の日 本/ビデオ教材

図1 学習経験者の文化認識分析例

4. 結果

日本について「何を」認識しているかに注目した「認識対象コード」(〔I〕)から、日本語学習経験者の日本文化認識は、「伝統文化」「精神文化」「生活文化」「大衆文化」「日本社会」「タイ日関係」⑥にわたっていることがわかった。このうち言及の多かった「伝統文化」「精神文化」「生活文化」についての認識を概観すると、以下の通りである。

表1 「伝統文化」「精神文化」「生活文化」認識の概観

伝統文化 ⁽⁷⁾	文化体験の印象が強く、日本文化への興味関心を感じている。また、 <u>日本は文化を保持しているという認識</u> が見られ、タイ人・タイ社会と対比して認識されている。認識の背景にはメディアの影響がみられ、日本語学習体験はメディアに注目するきっかけをあたえている。
精神文化	時間を守る、秩序・規律正しいといった日本人・日本社会イメージが強く、タイ人及びタイ社会と対比して認識されている。また、これらを自分やタイ社会に取り入れたいという志向も見られる。認識の背景には、メディアの影響、日本人との接触、教師の教示がある。
生活文化	料理に関する体験の印象が強い。また具体的な言及が多く、生活文化の差異に興味関心を抱いている。教師の教示や、教材など、日本語学習体験によって形成された認識が多い。

本稿では、表1の伝統文化についての「日本は文化を保持しているという認識」([文化の保持]認識)を詳細に見ていくこととする。この認識はメディアの影響が大きく、日本語学習体験との関わりを見られる点が興味深いためである。

以下、学習経験者に「どのように」認識されているかに注目した「認識プロセスコード」(<>)、および文化概念を認識するようになった情報源を示す「認識リソースコード」(【I】)を示しながら、その認識を示す。

(1) 文化の保持

日本文化について[文化の保持]を語った者は6名で、全員が対照してタイ文化の保持について語っている。(表2)

表2 [文化の保持] についての発話

発話者	番号*	発話
06SBJ	018	私は文化に関することが大好きです。日本人が未だ良い部分を守っている、その(伝統的な)生活スタイルが大好きです。それ(良い部分を守っていること)を一番はっきりと見ることができるのは、日本人が今でも民族衣装である着物を着ていることです。
	042	私達が勉強したことから、他の国の文化も、それぞれの独特な文化があると思います。タイのもので、わかりやすいのは「サワディー」のワイ《両手を合わせて行う挨拶》です。これは他の国には絶対ありません。でも、タイの民族衣装を着ることについては、タイでは、おそらく日本ほどはよく見られないと思います。着ているのを見ることはあっても、とても少ないと思います。会うのも、たぶんお年寄りだけで、最近のタイ人も着なくなっています。ですから、タイ国が(タイの服を)着ることを推奨したらいいと思います。
07SBN	056	タイと日本は似ています。独特な文化があるところが似ています。でも、お祭りのとき、タイ人はあまり自分たちの服を着ないで、他の国のものを主に着ていることが多いです。でも、日本人はお祭りでまだ日本人の服を着つづけています。
10SCJ	036	日本は清潔な国で、住みやすく、そして景色もきれいな国だと思います。それだけでなく、ハイテクノロジーで、独特な文化を持っている国、つまり発達しながら文化も保っている国だと思います。
	072	タイも独特な文化があると思いますが、日本のものほど特徴がないと思います。なぜなら、例えば(日本は)ゆかたや着物を着る文化が見られますが、タイ人はタイの民族服を着なくなりました。
12SCN	054	もし、タイと比べたら、タイは発展できますが、文化を忘れています。時間がたっても、日本人はまだ着物をきています。
16SDN	040-042	あるタイ人は、タイの文化の大切さがわかりません。たとえば、民族衣装や、チェンマイ弁、方言などです。(中略)それは、タイ民族衣装を着るキャンペーンや方言を話そうというキャンペーンがあることから、伺い知ることができます。
	044	日本人は文化を守っていると思うのは、日本人はお祭りのときに伝統の服を着ているのを見たからです。それは独自の文化です。
20SEN	ア6	タイの文化には日本と同様に独特なものがあると思う。そして、日本と同様に、タイに古い美しい文化があってほしい。
	014	伝統文化を守ることを教えることは、タイの学生に対しての教育に応用できます。

*ア x は、アンケート回答。x は設問番号を示す。

網掛け部分は日本の文化保持について語っている部分、下線部分はタイの文化保持について語っている部分である。6名の語りには共通点が多いが、彼らの出身校は同一でなくA校を除く4校にわたっている。20SENを除く5名が具体例に[服装文化]を挙げ、タイ人は自分たちの民族衣装を着なくなったが、日本人は浴衣・着物を着続けていると語る。ただし日本人が毎日着ていると思っているわけではなく、祭りや儀式のときによく着ると認識している。このように、<タイ社会と日本社会の比較>を行い、日本は文化を守っているという<日本社会イメージ>を抱いており、一方でタイは文化を守っていないと認識している。20SENも明確には述べていないが、日本は伝統文化を守っているという認識を持っていると考えられる。

また、「独特な文化」という言葉がよく使われていることも特徴的で、5名が[日本の独自性]を語っており、4名がタイにも独自性があると語っている。

(2) タイ社会・文化の省察

彼らはタイで全く民族衣装を着なくなったと言っているわけではなく、「普通は、儀式のときだけ着ます」(10SCJ:076^⑧)、「タイ人はもし本当に特別なお祭りじゃなければ、自分たちの服を着ているところは見られないです」(07SBN:058)と、日本より頻度が低い^⑨ことを語っている。表2の06SBJはお年寄りだけが着るという年代による違いも語っている。また、08SBNは日本の[文化の保持]を語ってはいないが、「(タイも)独自の特征があると思います。でも、時間とともに、それは多少変わってしまいました/他の国の文化をいくつか受け入れて、ミックスしています。たとえば、服装とか、食事とか」(08SBN:068、070)と、生活環境が変わりつつあるタイの状況を語っている。このような身近な事例から、「タイは発展できますが、文化を忘れていきます」(12SCN:表2)、「タイ民族衣装を着るキャンペーンや方言を話そうというキャンペーンがあることから、伺い知ることができます」(16SDN:表2)のように、タイの文化は失われつつあると<タイ社会・文化の省察>を行っている。このような<タイ社会・文化の省察>には、「あるタイ人は、タイの文化の大切さがわかりません。たとえば、民族衣装や、チェンマイ弁、方言などです」といったように、タイを一般化して語るのではなく「ある人は～」と語る場合も見られた。

(1)、(2)の[文化の保持]を語る学習経験者の認識をまとめたのが図2である。



図2 [文化の保持]の認識

学習経験者は日本、タイともに伝統文化の独自性を感じており、日本の独自性は現在も保たれていると認識している。一方、タイについては、日本との比較をしつつ、ある部分においてその独自性がなくなりつつあると認識している。もしくは自らの文化保持状況に疑問を抱いているからこそ、日本の文化の保持を認識するようになったと考えることもできるであろう。

(3) [文化の保持]認識の背景

次に、[文化の保持]という〈日本社会イメージの生成〉の背景を述べている発話を抜きだし、表3に示す。

表3 [文化の保持]認識の背景

発話者	番号	発話
06SBJ	018 (表2 の続き)	どうしてかという友だちが日本へ行ったことがあって、友達も日本人が普段のとき、そして、ときどき着ているのを見たことがあったと言っていましたから。まあ、それは私たちにとって目新しいです《いい意味で珍しい》。でも、日本人にとって普通のことなのだと思います。え、お祭りのときだけに着るんじゃない？と思いますが、そうではありません。それはいいことだと思います。私は好きです。
	050	先生も日本はゆかたを着るとよく言っていました。私たちは日本人がゆかたよく着るな、タイはあまり見ないなと自分でも感じていました。
07SBN	058-060	テレビなどマスコミで見ました。それは、海外のニュースで、「(日本では)今、こんなお祭りがある」という内容で、日本人はまだ自分たちの服を着ているのが見てわかります。でもタイ人はもし本当に特別なお祭りじゃなければ、自分たちの服を着ているところは見られないです。(中略)花火祭りです。
10SCJ	081-084	ニュースやテレビで見ます。日本のビデオクリップもよく見ます。ときどき、ウェブの中の記事も読みます。これらによると、日本人は文化をまもっているけど、タイ人で着ている人はいないということです。(中略)この話も、先生が見せたビデオなどで見ました。
12SCN	051-052	自分自身の考えです。私は彼らが本当に守っているのか、知りません。たとえば、私はビデオやニュースを見て、情報を追うことができます。私は、発展している国は、国の文化を忘れてしまうかもしれないと感じます。
16SDN	043-046	日本人は文化を守っていると思うのは、日本人はお祭りのときに伝統の服を着ているのを見たからです。それは独自の文化です。(中略)それは、本やインターネットの写真で見ることができます。「ふりそで・・・、ゆかた」

表3の5名のうち、4名がテレビ、インターネット、本などのメディアから情報を得たと述べている(【メディアの中の日本】)。このうち10SCJは、高校2年のときに日本に2週間滞在した経験があるため、日本滞在中に着物を着た人を見かけたか訊いてみたが、1人だけだったと答えた(10SCJ、発話番号085-094)。実際に見聞きしたものより、メディアの情報が優先されていると言える。

では、日本語学習と関係なく、メディアの情報から日本の[文化の保持]認識を持つようになったのだろうか。タイのメディアで日本が取り上げられることは珍しくなく、彼らは日本語学習以前に日本についての情報に触れることができる。ただし、「それ以前にも見ましたが、一般的な見

方をするだけで、興味を持ちませんでした／勉強してから私達が勉強したことと同じかどうか見るようになりました」(07SBN:064,066)、「もし日本語を勉強していなかったら、見てもそれが何か、その服が何か分からなかったです。つまり、わからないけど、その形がきれいだなとだけ思います」(10SCJ:100)といった語りから、日本語学習体験を通して、【メディアの中の日本】に気付く可能性が示唆されている。

また、メディアが直接「日本人は文化を守っている」と伝えているとは限らない。「この考えは、自分で考えました」(10SCJ:104)、「自分自身の考えです。私は彼らが本当に守っているのか、知りません。たとえば、私はビデオやニュースを見て、情報を追うことができます。私は、発展している国は、国の文化を忘れてしまうかもしれないと感じます」(12SCN、表 3)と語られているように、メディアや日本語学習体験から「着物を着ている日本人」という情報を得て、＜異文化への推察＞を行い、「日本人は文化を守っているのだ」という[文化の保持]認識に至っていると考えられる。

日本へ行ったタイ人友人も＜日本社会イメージ生成＞の情報源となりうる(【タイ人友人から】)。06SBJは友人から日本人は普段から着物を着ているという情報を得て、＜異文化の推察＞を行い[文化の保持]認識を持っている。

5. 考察

分析の結果、学習経験者の[文化の保持]認識は、少なからずメディアからの影響を受けていると言える。出身校が異なっても共通の認識を持つのはこのためだと思われる。しかし、[文化の保持]認識は、メディアや、教師が明示的に伝えたものではなく、「日本では祭りのときに浴衣を着る」等といった情報とタイの現状を照らし合わせて、学習者が主体的に認識を形成した結果と考えられる。この際、日本の文化については均質的に一般化して捉えており、一方、タイに関しては具体的に年齢や人によって異なると認識している。これは、自分たちのグループ(内集団)とそうでないグループ(外集団)に分けると、内集団に比べ、外集団の成員を等質なものを認知してしまう「外集団均質性効果」(上瀬,2002)によるものだと考えられる。

矢部(2001)は外国語教育の中で扱う文化について、「知識伝達型の文化の提示は、文化の可変性を無視し、文化を固定化してステレオタイプを助長する結果を招く」(p.19)と述べているが、知識伝達型の授業の有無とは関係なく、学習者はメディア等から情報を得ており、その少ない情報から一般化を行っている。教師はこの点を意識し、学習者がどのような認識を抱きがちなのかを知っておくことが重要であろう。

また、今回の分析から中等教育機関での日本語学習体験はメディアに注目するきっかけは与えるものの、メディアで生成された認識を大きく書き換えることはないのではないかと考えられる。この理由は2つ考えられる。まず、学習者が自分の認識に合う情報を選んでいると考

えられる。社会心理学では、人には、ある信念をもつとそれと一致する事象が生じると予期する傾向があり、その予期に従って新しい情報を探索し、解釈する傾向（仮説検証型の情報処理傾向）があるとされている（上瀬,2002）。2 つめの理由としては、日本語教育の場でメディアから生成した日本社会イメージを検証する機会が少ないことが考えられる。メディアの中の日本は、ものの考え方や価値観を伝えるために、現実（日本）を再構成して見せたものである。具体的には視聴者の興味や関心を引くように、時には観光や消費に結びつくように構成されている。学習者が自ら、メディアの特性を理解し、メディアリソースを主体的に読み解けるよう、メディア・リテラシーを身に付ける必要があるだろう。

6. まとめと今後の課題

本稿は、「伝統文化」の中の[文化の保持]認識を中心に、タイ中等教育機関日本語学習経験者のタイ・日文化認識とその背景を記述した。海外における日本社会文化リソースは限定されてはいるが、学習者は教室内外の様々なリソースから総合して日本文化を認識している。その際、日本については一般化された認識を抱きがちであること、また日本語学習体験はメディアに注目するきっかけは与えるものの、メディアから生成した日本社会イメージを検証する機会が少ないことを問題点として挙げた。

この解決のためには、学習者が日本文化を認識するプロセスを教師も共に知ることが大切であろう。そのための仕掛けとして、日本が出てくる CM の分析（鈴木,2004）や、ポートフォリオの活用等が考えられる。ポートフォリオには「授業を受ける前に持っていた知識や情報、イメージなどを記録させ、それが活動や授業でどのように増えたか、変わったかを学習者自身も教師も観察することができるシート」（国際交流基金,2010,p.67）を保存し、「学習者が自分で自分のポートフォリオを見るだけでなく、学習者同士で見せ合う」（同,p.70）評価活動を行うことで教室に学習者の認識を持ち込むことが可能となる。

また、タイ、もしくは自分に置き換えてみて考えてみる機会を持つことも一つの解決策になると考える。日本を通して、タイに相当する文化があるかどうか、それはタイ全体に言えることなのかなどを考えることによって、日本の文化の捉え方に柔軟性が出てくるのではないだろうか。

今回は日本語学習経験者の日本及びタイ文化認識に共通する点を取り上げたが、実際には文化認識プロセスにはかなりの多様性がある。今後は一人ひとりの認識を事例として分析することで、文化認識プロセスの多様性を浮かび上がらせることも必要であると考えられる。また、教師が教室で文化をどのように扱っており、学習者にどのような認識をもたらす可能性があるのかも取り上げていきたい。

注

- (1) タイの初等・中等教育機関の日本語教育内容は、タイ教育省が出した 2001 年『タイ仏歴 2544(2001)年基礎教育カリキュラム』の外国語の学習内容として定められている。(2008 年に改定版が出されているが、学習内容は同じである)
 内容 1 コミュニケーションのための言語／内容 2 言語と文化／内容 3 言語と他の学習内容グループとの関係／内容 4 言語とコミュニティーや世界との関係
- (2) 学習水準は「知識、技能、過程、道徳、倫理、価値観の面での規定である。それは、学習者の望ましい資質を身に付けさせることを目標とするものである」(タイ教育省,森下稔・鈴木康郎・カンピラパーブスネート訳,2004)。
- (3) 後期課程の日本語専攻コースに注目したのは、3年間と長期にわたって日本語学習を行っているため、学習水準の求める内容が明確に表れるのではないかと推測したことによる。
- (4) 5校は、所在地、公立/私立、進学校か否かのバリエーションがつくように選択した。
- (5) 05SBJ、06SBJ は時間の都合で文字化作業が出来なかったため、通訳に文字化を依頼した。
- (6) 「伝統文化」「精神文化」「生活文化」「大衆文化」概念は、佐々木(2002)の文化分類枠組みを参考にしている。佐々木(2002)では、「日常生活」文化概念としているが、本研究では他の概念名に合わせて「生活文化」とした。また佐々木(2002)では「精神文化」を「『日本人』の考え方、価値観、思想、など、見えざる文化、内面」としているが、本研究では学習経験者によって日本人の行動様式や価値観と考えられているものを精神文化としている。
- (7) 伝統文化の語りとして分類したものは、[踊り][折り紙][かるた][茶道華道書道][年中行事][服装文化][風呂敷][祭り]である。[年中行事]に関して、佐々木(2002)は「日常生活重視」文化概念に含めているが、「伝統文化」にも重なる部分があると述べている。筆者も[年中行事]を生活文化に重なる部分があると考えているが、本調査ではお正月、七夕など伝統的な行事についての言及が多かったことから伝統文化に入れている。
- (8) 引用括弧中、“:”の前は発話者の ID、後ろの番号は発話番号を示す。
- (9) 北部タイの公立機関(市役所、学校等)では毎週金曜日に民族衣装を着ることになっており、小学生から高校生まで学校指定の民族衣装を着ているため、筆者はタイで民族衣装を目にするが多かった。

参考文献

- 李 炫姪(2003)「韓国の年少者日本語教育に見られる『文化』概念」「21世紀の『日本事情』」編集委員会編『21世紀の「日本事情」』第5号、くろしお出版、pp130-139
- 呉 正培(2008)「日本語学習者の日本人イメージにみられる特徴とその形成要因—韓国の大学における学習者と非学習者の x 比較—」『世界の日本語教育』第18号、国際交流基金 日本語国

際センター、pp35-55

- 上瀬由美子 (2002) 『ステレオタイプの社会心理学：偏見の解消に向けて』、サイエンス社
- 国際交流基金 (2010) 『日本語教授法シリーズ 11 日本事情・日本文化を教える』、ひつじ書房
- 佐々木倫子(2002) 「日本語教育で重視される文化概念」 細川英雄編『ことばと文化を結ぶ日本語教育』、凡人社、pp218-234
- 佐藤郁哉 (2008) 『質的データ分析法 原理・方法・実践』、新曜社
- 鈴木京子(2003) 「オーストラリアにおける日本語教育の『文化の学習』観に関する一考察」 21世紀の『日本事情』編集委員会編『21世紀の「日本事情」』第5号、くろしお出版、pp140-148
- 鈴木みどり編 (2004) 『Study Guide メディア・リテラシー 入門編』、リベルタ出版
- タイ教育省 (森下稔・鈴木康郎・カンピラパーブスネート訳) (2004) 『タイ 仏暦 2544 (2001) 年基礎教育カリキュラム』
- 張 勇 (2013) 「日本語学習者の異文化態度に関する意識調査—日本語専攻の中国人大学生を対象に—」 『日本語教育』 第154号、日本語教育学会、pp100-114
- 箕浦康子 (2003) 『子供の異文化体験 増補改訂版』、新思索社
- 矢部まゆみ (2001) 「海外の初中等教育における日本語教育と<文化リテラシー>」 「21世紀の『日本事情』」 編集委員会編『21世紀の「日本事情」』第3号、くろしお出版、pp16-29

資料 1. 質問項目 (フェイスシート部分を除く)

1. คุณมีความคิดเห็นอย่างไรเกี่ยวกับการเรียนภาษาญี่ปุ่นในโรงเรียนสมัยมัธยมศึกษาตอนปลาย ยกตัวอย่างเช่น เรื่องภาษาญี่ปุ่น อาจารย์ผู้สอน เพื่อน กิจกรรม กรรณานิบายเหตุผล
(今、高校の日本語の授業を振り返って、どう思いますか。日本語のこと、先生のこと、友達のこと、活動のこと、なんでもかまいません。自由に書いてください。)
2. หลังจากที่คุณเรียนภาษาญี่ปุ่นแล้ว คุณมีความคิดเห็นต่อ ประเทศญี่ปุ่น อย่างไร กรรณานิบายอย่างเป็นรูปธรรม
(日本語を勉強して、日本について何か気づいたことがありますか。具体的に書いてください。)
3. หลังจากที่คุณเรียนภาษาญี่ปุ่นแล้ว คุณมีความคิดเห็นต่อ ประเทศไทยหรือวัฒนธรรมไทย อย่างไร กรรณานิบายอย่างเป็นรูปธรรม
(日本語を勉強して、タイやタイの文化について何か気づいたことがありますか。具体的に書いてください。)
4. จากประสบการณ์ที่คุณได้รับจากอาจารย์ผู้สอน เพื่อน กิจกรรม และอื่นๆ ในสมัยที่เรียนภาษาญี่ปุ่น ในระดับมัธยมศึกษาตอนปลาย คุณสามารถนำมาใช้ประโยชน์ได้หรือไม่ อย่างไร กรรณานิบายอย่างเป็นรูปธรรม
(高校の日本語の授業の経験 (日本語、先生、友達、活動など) で、今の生活に活用できることがありますか。具体的に書いてください。)